

# 赫夜 —かぐや—

## 浮世絵 版面の 世界

令和6年度  
春のテーマ展  
The world of  
Ukiyo-e Print

令和7年 2月1日 SAT

▶ 4月13日 SUN

会場／富士山かぐや姫ミュージアム 本館2階 特別展示室⑥

開館時間／9:00～16:30(4月からは17:00閉館)

休館日／月曜日(祝休日は開館)、祝休日の翌日

観覧料／無料

▶同時開催「復刻版 葛飾北斎名撰集」  
会場：本館2階 多目的室⑥  
※デジタル版画研究所による復刻版「葛飾北斎名撰集」を展示します。

▶ギャラリートーク  
日時／2.8(土)、3.1(土)、22(土)、4.12(土) 14:00～  
※申込不要、30分程度、展示室⑥前にお集まりください。



歌川国貞「東海道五十三次之内吉原図」江戸時代後期

浮世とは現世、今この時代という意味を持つ言葉です。江戸時代に誕生した「浮世絵」は、その名のとおり、江戸時代の様子を生き生きと表現豊かに描いたものをさします。特に「浮世絵版画」は、庶民にも手に入りやすい価格で販売されたアイテムで、最新の情報を世間に届ける役割もはたしていました。

今回は当館所蔵の浮世絵版画、主に「東海道や富士山」、「歴史や物語」を描いた資料を展示します。特に、東海道シリーズはとても人気がありました。人気が出たということは、富士市周辺の様々な風景は、今も昔も魅力的ということで、浮世絵版画を通して、当時の人々と大いに共感できる部分です。この展覧会を通して、江戸時代の地域の雰囲気を感じていただければ幸いです。

(佐野あき沙)

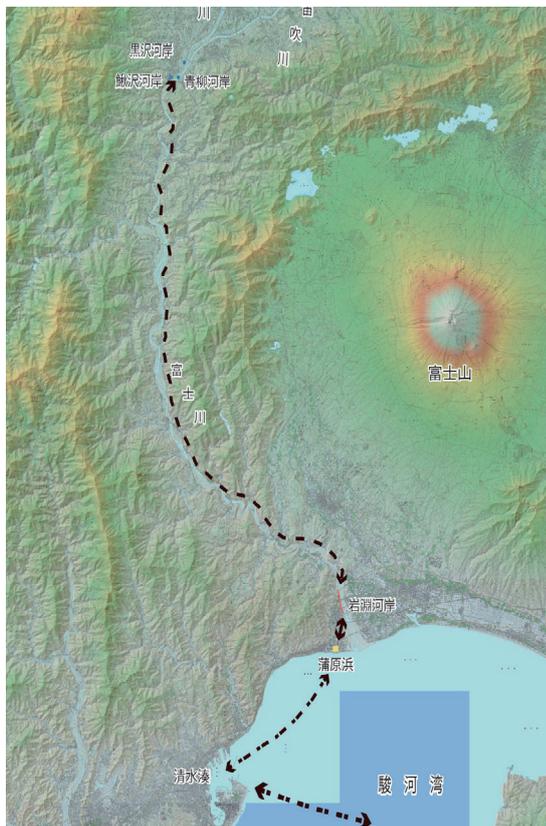
## 今に残る富士川舟運の痕跡

旧富士市と旧富士川・松野地区が合併して、10数年が経過しました。当館は富士川舟運や岩淵鳥居講といった旧富士川地区、特に岩淵地区に残された代表的な歴史事象や文化財について古文書や映像等の資料を使って、来館者の皆様にご紹介していますが、岩淵にはまだ知られていない資料が多く残されています。

本稿では、その中で旧富士川地区岩淵にある富士川舟運関連跡地についてご紹介いたします。

### 富士川舟運と渡船場

富士川舟運とは江戸から明治時代に甲州三河岸とよばれた鰍沢・青柳・黒沢河岸と下流の駿州岩淵河岸を拠点としその間川丈約18里（約71km）の行程を川舟にて、物資を運送したことを言います。諸説ありますが、慶長12年（1607）に徳川家康の命を受けた京都の豪商角倉了以が、富士川に舟を通すため、開削工事を実施したことにより、成立したといわれ、江戸時代を通して常時300艘が富士川を上下していました。その目的は家康が大御所として在住した駿府（現静岡市）の基盤を整えるため、甲州と清水港、駿府を結ぶ物資運搬ルートを開発したと考えられます。



河岸場・廻米図（3D カシミールをもとに作成）



常夜塔と角倉了以顕彰碑

主な物資は岩淵から塩や海産物、茶が、甲州側からは米が運搬されました。特に「上げ塩、下げ米」といわれるように、生活必需品であった塩は上げ荷の主要な物品でした。これに対して下げ荷の主要な物品は甲州一帯でとれた幕府に収まる年貢米でした。この年貢米は、舟運で岩淵河岸に荷揚げされ、馬や人足を使い、陸路で蒲原の浜まで運ばれ、その後、小型船で清水の湊まで輸送されました。年貢米は、清水湊から江戸（東京）に大型船で送り、一部は駿府城御蔵や清水湊御蔵に納められました。江戸に米を回送することを「ご廻米」、駿府城や湊御蔵に収めることを「ご城米」と呼び、舟運の最大の役割の一つであったと考えられています。

岩淵河岸場があった一帯に往時を示す痕跡は、残されていません。これは富士川の下流域で頻繁に起こる川の氾濫が原因と考えられます。このためか江戸時代の絵図を見ると川沿いには簡易な建物しか見当たりません。これに対して岩淵の河岸段丘の上段に通っていた東海道沿いに「城米場」、「御廻米蔵場」といわれる施設が描かれていることから、主要施設は川から離れた段丘上段に配置していたことが窺われます。

現在、現地には県道富士川身延バイパス沿いに「當村渡船甲州船中為安全」と刻まれたの常夜塔と明治期に建てられた角倉了以顕彰碑が唯一残されています。



明治以降の高瀬船

### 岩淵水門と富士川運河

明治時代に入り、甲州での年貢が米納から金納に変更されました。このため明治3年(1870)まで廻米が一時中断され、舟運は一時、衰退します。ところが翌4年(1871)、年貢の米納が再開され、舟運が再び盛んに利用されるようになり、明治中頃には最盛期を迎え、常時800艘もの舟が通船として活躍していました。この背景には明治政府が全国の運輸機構の確立に努めたことと舟運が幕府の公用から民間事業者に運営が移り、事業に参入しやすくなったことが考えられます。

この時期に舟運を運営していた甲州三河岸が富士川運輸会社を、岩淵河岸を運営した岩淵村が富士川送達会社(後の拡達会社)をそれぞれ起業しています。

また、舟運の隆盛には岩淵を避けて、蒲原に直接抜ける水路が新たに築かれたことが大きく影響しました。蒲原新水道と呼ばれたこの水路はこれまで岩淵が岩淵・蒲原間の駄送を担っていたことから、その既得権益によって甲州三河岸の負担が大きかったことが起因となります。前述の運輸会社を中心となって岩淵の独占的な利益を排除するため、建設しました。

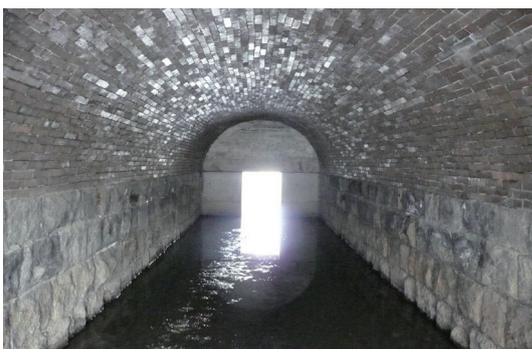
その後、明治22年に東海道線岩淵駅(現富士川駅)が設置されたことによって、陸路と水運をつなぐため、新水道とは別に岩淵駅構内に停船場を設け、岩淵周辺の富士川本流から運河を新設しました。これを富士川運河(地元では堀川運河と呼称)と言います。



昭和29年の富士川運河

現在の富士川ふれあいホール敷地北側には富士川本流につながる水門(岩淵水門)が残されています。富士川側は後世にコンクリート壁と鉄製門扉に改修されていますが、運河側はレンガと石積み造で建造当初の姿を留めています。ふれあいホールの駐車場下には運河がそのまま埋められており、また、隣接する富士川第1中学校体育館裏を運河は通っていましたが、体育館を改築する際に埋められました。現在は花壇となっていますが、運河の川幅はそのまま残されています。また、ふれあいホールの玄関を入ると大きな川船が展示されています。この船は旧富士川町が町制90周年を記念して、作成した原寸大の高瀬舟の復元船です。この船は長さ7間~7間半(13~13.5m)、幅5尺4寸~7尺(1.6~2.1m)、深さは2尺4寸~3(73~91cm)、樅材で造られ、舟の構造は全体的に薄い板で造られ、船底は平たく、艫と舳先部分が高くなっています。竹の筐に似ていることから別名「筐舟」と呼ばれていました。舟の積載量は下り舟が300~360貫(1125~1,350kg)、上り舟が260~300貫(975~1,125kg)、船客は15人程度、工程は岩淵から甲州の上りが4~5日、下りが7~8時間、急げば2~3時間程度の工程でした。

このように富士川地区岩淵地域には富士川舟運の痕跡の一部がまだ残されています。一度、現地を訪れてその時代に思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。



岩淵水門(上:入口 下:内部)



復元された高瀬舟

展示室②富士山の玉手箱 特別展示

武田弘氏寄贈富士山コレクション

扇に描かれた富士山

令和7年1月4日(土)～5月6日(日)

広島市在住の武田弘さんから寄贈された8000点を超える富士山コレクションから富士山が描かれた扇を紹介いたします。

扇は平安時代に日本で発明されたと考えられており、暑い日に涼をとるなどの日常生活や、和歌山県熊野那智大社の火祭りなどで見られるような祭事の道具として使用されています。またインテリアやお土産物としても生産・販売されています。

扇の絵柄には、人物を描いたものや和歌を書き記したものの、動物や風景を描いたものなど、様々なモチーフが使用されており、富士山を描いた扇も数多く作られてきました。8000点を超える富士山コレクションにも、約300本の富士山を描いた扇があります。その中には書画の題材によく用いられる松と富士山を描いたものや扇の形を富士山形に変形したものなど、ユニークな扇が見受けられます。

今回はコレクションの中から22点を選んで展示しました。様々な形で扇に表現された富士山をぜひお楽しみください。(成瀬 陽介)



展示風景

「文化財防火デー」実施報告

令和7年1月17日(金)

1月17日に富士川民俗資料館にて、文化財防火デーを実施しました。

文化財防火デーは、1949年1月26日に法隆寺金堂壁画が焼損したことを契機に、この日を中心として文化財を火災等から守るために1955年より始まった訓練です。今回は富士市西消防署のご協力のもと、ライブ119を使った通報訓練や水消火器を使った初期消火訓練、効果的な負傷者搬送の方法の指導などを実施しました。(成瀬 陽介)



訓練の様子

富士山ネットワーク推進委員会活動

「富士山ネットワーク」は、富士山を中心に点在する博物館関係施設がサービスの向上と効果的なPRを目指して平成5年に組織したものです。

夏休み富士山ぐるりんコンテストでは、加盟館園における体験、富士山をテーマにした作品を募集しました。第22回の今年は43作品の応募がありました。10月20日に奇石博物館にて表彰式を行い、加盟館園にて受賞作品の巡回展を行っています。

来年度もたくさんのご応募をお待ちしております。(佐野瑛里加)



富士山かぐや姫ミュージアム 赫夜-かぐや-

発行年月日 令和7(2025)年3月31日

編集・発行 富士山かぐや姫ミュージアム

Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

住所・連絡先 〒417-0061 静岡県富士市伝法66-2

TEL.0545-21-3380 FAX.0545-21-3398

HP. <https://museum.city.fuji.shizuoka.jp/> E-mail. [museum@div.city.fuji.shizuoka.jp](mailto:museum@div.city.fuji.shizuoka.jp)

開館時間 3月まで 9:00～16:30 4月以降 9:00～17:00

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、12/29～1/3(年末年始)

歴史民俗資料館(分館) 開館時間・休館日は本館に同じ

博物館屋外展示(ふるさと村) 休館日なし すべて観覧無料

博物館だより No.82



タイトルの「赫夜-かぐや-」は、富士山のかぐや姫物語を今日に伝える「富士山大縁起」(当館蔵)に登場する「赫夜姫」からとっています。